

ENJOY!

Early Summer Fishing

LIGHT AJI



●ライトタックルで手軽に楽しめるから老若男女だれにでも人気がある

▼アンドンピシはオモリ40号。船宿仕掛けはハリス2号全長1.8メートルの2本バリ



東京湾奥金沢漁港出船

八景沖のライトアジ

初夏は浅場で大型に期待

撮影●椎名義徳

●東京湾のライトアジは間もなく初夏のトップシーズンを迎える



▲当日の釣り場は八景沖の水深30メートル前後。今後は水深20メートルを切る浅場で楽しめるようになるはず

●タナは底上2~3メートル、まめにコマセをまくことが大切



おいすぎる! 東京湾のアジ



東京湾でライトアジを楽しむ人は、その食味に惹かれて釣行することが多い。とくに湾奥で釣れるアジは周年おいしいことで定評があるが、これからの時期はさらに脂の乗りがよくなるという。今回釣れたアジは定番の刺身でいただいたが、すぐにでも再釣行したいぐらいのおいしさだった。



▲タタキやフライにちょうどいいサイズ



▶当日最大は35センチ級。今後はこのサイズが交じる割合が高まってくる



▲ゲストのイシモチも良型ぞろい

いつでも楽しくおいしい東京湾のライトアジが初夏の山場を迎えようとしている。金沢漁港からの出船では港至近の八景沖30メートルルダチ前後を狙い、20~25センチ級主体に30センチオーバーの良型交じりでトップ30尾前後の釣れ具合。取材日こそポイントの水深はやや深かったが、本誌発売のころは水温も上昇、水深20メートルを切る浅場で30~35センチ級が交じる割合がグッと高まっていくはず。さらに脂の乗りも一層増し、食味の面でもピークを迎えるだろう。
(詳細は52ページ参照)



●ただでさえおいしいアジがさらにおいしくなる季節



▶大型はタモ取りしよう



●見るからにおいしいそうなプロポーション



●東京湾奥金沢漁港・仁春丸 小泉 学船長